

OB、恩師 後輩にエール



「写真真館」
（直方市）

創立100周年を迎えた嘉穂東高校の同窓生や恩師たちが、学校生活の思い出や後輩に託す願いを語った連載「希望の集い」私のメッセージ」が、2日から26日まで、18回の連載で「ちくほつ版」に登場した関係者は延べ67人に及ぶ。

母校見守り次の1世紀へ



長崎大学医学部の施設で医療活動や研究に励んだ同窓会長の医学博士、日高武邦さん(75)が故郷・飯塚市に帰ったのは2001年。翌年、同級生から会長を打診され、現在5期目を迎えた。「節

目を祝う行事としてふさわしかったか。100周年記念事業を総括して後進にバトンを渡すのが、私の役目です」と語る。

希望の集い

私のメッセージ

嘉穂東高100周年

「広い視野で物事見て」「一生の友 手に入れて」



100年の歴史を刻み、現在は飯塚市立岩に校舎を構える嘉穂東高校



「生徒たちとは、毎年のように海や山へキャンプに行き、クリスマス会をして楽しんだ。私自身にとっても青春時代だった」と懐かしむ。



田川署長の茂浦口秀一さん(56)は川市伊田は1973年卒の25回生。生物部だが、「筑豊



に没頭した高校時代は「教室、道場、家の記憶しかない」と笑う。



理想の学校像は「地域にあるのが普通だが、なくてはならない存在」と説く。「次の100年も地域に愛される学校であり続けてほしい」

戦時中の1942年に入学した会社役員の前田(旧姓・宮本)知子さん(81)飯塚市南尾はも髪は二つ結を作り「校風にあった、にぎやかな雰囲気を出し、節目の年を祝えた」と語る。

花村校長 「人生の根っこに嘉穂東」

すらすらと歌えた校歌 「卒業生」実感

100周年の節目を迎えた校長の花村徳美さん(59)飯塚市川津は、1967年に入学した同窓生でもある。「人生の根っこが、嘉穂東で過した3年間にある」とい



校長室で、演劇部時代の脚本を広げる花村さん

「目指せ甲子園」

24年前県大会出場主力メンバー 「21世紀枠」推薦校決定は名誉



現役当時のユニホーム姿で肩を組む(左から)三宅さん、黒土さん、山野さん

今年夏の全国高校野球選手権大会で嘉穂東高校野球部は24年ぶりに県大会出場を果たした。1986年の主力メンバーが、主将だった黒土裕司さん(42)をはじめとする39回



飯塚駐屯地で勤務するOBの(左上から)香野大和、山尾憲、平井正路、久保靖治、菅木純一、八木場茂基の各氏

やりがい見つけて 陸自飯塚駐屯地OB

飯塚市津島の陸上自衛隊飯塚駐屯地には、現在、嘉穂東高校の卒業生32人が勤務している。

父親も飯塚駐屯地で勤務していた菅木純一さん(28)は2年前、飯塚市に保の筑豊ハイッで開催された「飯塚国際車いすテニス大会」で、選手や荷物の、輸送支援のボランティア活動に携わった。八木場茂基さん(52)は、1995年1月の阪神淡路大震災で、災害派遣として3カ月間、現場で家屋の下敷きになっている被災者の救助や配食支援などを行った。2人は「地域や人々を支えていきたい。後輩たちも将来、やりがいのある仕事を見つけてほしい」と呼びかけている。